

テクニカルセミナー10

制御性T細胞を標的とした 免疫応答制御の展望

制御性T細胞(Treg)、特に転写因子Foxp3を発現するnatural Tregは、生理的状态で機能的に分化したT細胞サブpopulationとして正常個体中に存在する。また、他のT細胞と細胞表面分子マーカー(例えばCD25)によって分別可能である。従って、Tregを体外に取り出し、抗原特異的増殖させたTregを宿主に戻すことで、細胞療法として抗原特異的免疫抑制を図ることができる。また、サイトカイン、抗体の投与により*in vivo*でTregの増殖を誘導できる。Tregによる免疫抑制は、自己免疫疾患の治療、移植臓器に対する免疫寛容の誘導、拒絶反応の抑制への応用が期待されている。逆に、Tregの量的減少、抑制機能の弱化により免疫応答の亢進・強化も可能である。例えば、Tregを標的としたがん免疫療法は有望である。ヒトの免疫疾患の治療・予防、また生理的免疫応答の制御に向けて、ヒトTregの研究の現状と展望を議論する。

(出典: 2012日本免疫学会総会・学術集会記録 第41巻)

日時

平成24年12月7日(金) 12:00-13:00

会場

神戸国際展示場2 I会場(3A)

座長

竹田 潔 先生

大阪大学大学院医学系研究科 感染免疫医学講座 免疫制御学
大阪大学免疫学フロンティア研究センター 粘膜免疫学

講演

坂口志文 先生

大阪大学免疫学フロンティア研究センター 実験免疫学

「セミナー弁当引換券」配布について

配布日時: 12月7日 7:30~11:10

配布場所: 神戸国際会議場3階ラウンジ

共催: 特定非営利活動法人 日本免疫学会
日本ベクトン・ディッキンソン株式会社

